



ニューヨークの美術館のらせん階段です…と紹介すれば鵜呑みにする人もいるのじゃないかと思われるほど、とても洗練された建築美。

実はこれ、大館市役所本庁舎内のらせん階段なのだ。市の職員や市役所に用事があって訪れる人でもなければ目にする機会がなく、一般にはなじみの少ないスポットであるけれども、少しでも建築に関心のある人であれば、目を奪われるに違いない。しかも、このらせん階段を含む庁舎の大半は昭和29年（1954）の完成というから、50年以上も前からこのらせん階段はここにあったのだ。今でもどことなく近未来的なイメージがあるが、戦後10年も経ていない時期にこれほどの斬新な設計がなされ、それを良しとした当時の大館市の「進取の気性」も素晴らしいと思う。

庁舎全体を見ると、建物の老朽化も進み、現在となつては陳腐化している個所も散見されることから、建て直しも議論される段階になっているようではある。一方、秋田はッえふり

こぎの風土のためか、全県で歴史的に価値があるとと思われる建築物があっけなく解体されるケースも少なくなかった。日本の近代建築史上でもたいへん貴重な存在であると思われるこの大館市役所のらせん階段は、そんな憂き目に遭わず、願わくば長く後世に姿を留めて（と）いつてほしいものである。

ちなみに、一般の事務室区画も半世紀前の設計のため、現在となつては必ずしも使い勝手は良くなさそうだが、昭和という時代を舞台にした映画のロケなどにはおあつらえ向きかも、思ったことだった。

大館に行く機会があつたら、ぜひ市役所に立ち寄つて、このらせん階段を昇り降りしてみたいかがだろう。あるいは、このらせん階段を見るために大館に行って、そのついでにおいしいものを食べたり温泉に入ったりという周辺観光を楽しむのも一興だろう。

建設当時の詳細な記録は残されておらず、らせん階段の設計コンセプトや採用の経緯を知る手だてはない。逆にそれもちよつとミステリーっぽくて面白い。財政難という皮肉な事情もあり、らせん階段は当面は姿を留める

## 天にも昇る気持ち